

科目分類	医療のコラボレーション教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
18035	1	前期	必修	2	30
授業科目名 (英文)	体の仕組みと働き I (Anatomy and Physiology I)				
担当教員名	高野 海哉				
授業の概要及び到達目標					
<p><b>【概要】</b> 看護は人を対象にする専門職であるため、私たちの身体がどのような仕組みと働きを持っているのか正しく理解しておく必要がある。本科目は人体や人体を構成する器官・臓器について、正常な構造と働きに関する基本的な事項を学ぶ。</p> <p><b>【到達目標】</b> 本講義の内容で取り上げた、人体の構造や人体を構成する臓器・器官の位置や形、基本的な正常な働きについて、授業や各自の自学自習により理解し、記憶する。</p>					
準備学習等					
<p><b>【受講する準備（予習）：授業1回分に対して30分】</b> 講義は次ページの「授業計画」に沿って行う予定である。予習として、「講義テキスト」と購入した参考図書（下記「テキスト」欄参照）において次回予定内容の該当項目を一読し、次回の授業内容を把握しておく。</p> <p><b>【受講】</b> 講義は授業形式で行われる。各回の授業は進度が早いので欠席すると内容理解が不十分となる可能性が高い。授業を受けた内容を「講義テキスト」にメモを取るなどして記録するようにし、後に復習できるようにする。</p> <p><b>【受講後の復習：授業1回分に対して30分】</b> 授業後の復習として、授業で「講義テキスト」に書き込んだメモなどを整理し、内容理解に努める。購入した参考図書で授業内容に該当する項目も読み、授業内容に追加して理解を深める。この段階で疑問点が生じた場合は、下記「参考図書」で調べるか、担当教員に質問して問題解決を図る。</p>					
成績評価の方法	定期試験 100%				
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義テキスト（初回の授業の始まりで配布します）</li> <li>・（基本を学ぶ看護シリーズ）2. からだの仕組みと働きを知る（高野海哉・川岸久太郎・草間朋子 著：東京化学同人）</li> </ul>				
参考図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>※「系統看護学講座 専門基礎① 解剖生理学」(坂井建雄ほか著 医学書院)</li> <li>※「ナーシンググラフィカ① 解剖生理学」(林正健二編 メディカ出版)</li> <li>※「ロス&amp;ウィルソン 解剖生理学」(島田達生ほか監訳 西村書店)</li> <li>※「ヒューマンボディ 原著第3版」(片桐康雄ほか監訳 エルゼビアジャパン)</li> <li>※「臨床につながる解剖学イラストレイテッド」(松村讓児 著：羊土社)</li> <li>※「人体の構造と機能（第3版）」(佐藤昭夫ほか著：医歯薬出版)</li> </ul>				

備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オフィスアワーについては、履修案内「オフィスアワー」の項目を参照にしてください。メール (k-takano@thcu.ac.jp) でいつでも質問などには対応します。</li> <li>・試験実施後に出題内容に関する解説を行い、答えは返却する予定です。</li> </ul>	
授 業 計 画		
第1回	骨格系	骨のはたらき 全身の骨格系
第2回	筋系	骨格筋のはたらき 全身の骨格筋 主な関節運動
第3回	呼吸器系	呼吸器系のはたらき 気道（気管・気管支）の特徴 肺の形態 呼吸運動
第4回	循環器系	循環器系のはたらき 心臓の位置と形 全身の動脈・静脈の分布
第5回		血液
第6回	体を守るしくみ (生体防御)	免疫系の意義としくみ 血液型
第7回		皮膚の構造 粘膜の構造
第8回	神経系	神経細胞の特徴 神経系の成り立ち
第9回		中枢神経系の特徴 末梢神経系の特徴
第10回	自律神経系 内分泌系	自律神経系の分布 内分泌の特徴と内分泌器官
第11回	消化器系	消化器系器官の位置と特徴 消化管のはたらき
第12回		肝臓のはたらき 胆嚢と胆道 膵臓のはたらき
第13回	腎・泌尿器系	腎臓のはたらき 腎臓の位置 尿路の特徴とはたらき
第14回	生殖器系	生殖器系の特徴 生殖腺のホルモン調節
第15回	内臓・器官の 原位置	頭部と頸部 胸部・腹部・骨盤部の臓器

